

米大統領選の直後、心ある市民たちは「(ブッシュを勝たせて)ごめんない」というメッセージをインターネットで全世界に発信し始めた (<http://sorryeverybody.com>)。ボードを持って写真を投稿するそのアクションに、全米から3500名を超える人びとが参加。それは聞いをつづける決意表明でもあった。pictures from "Sorry Everybody"



歴史家・ボストン大学名誉教授 **ハワード・ジン**

怒りを胸に立ち上がれ

ブッシュ大統領最後の4年間をどう闘うか

1月20日、アメリカ第44代大統領に再選されたジョージ・W・ブッシュは、満面の笑みを浮かべて大統領就任式典にのぞんだ。彼とこれから4年間もつきあわなければならない私たちは、何をなすべきか。ベトナム反戦運動のリーダーとして、そして昨年の大統領選でも反ブッシュを掲げて果敢に抵抗したハワード・ジン教授が発した「闘争宣言」! 訳・ヤパーナ社会フォーラム (荒井雅子・安濃一樹・別処珠樹)

大統領選が終わったあとに

大統領選挙が終わったあと、私の友人はみんな、さまざまな感情を抱えているようでした。がっかりする人、怒りにふるえる人、不満でたまらない人、何もかも嫌になった人。(そのほかに簡単には説明できない複雑な感情を持った人もいたことでしょう。)

いつもは「こんにちは」としか言葉を交わさない近所の人たちが、私を引き止めて話しかけて来ました。口々にアメリカが危ないと興奮して訴えます。

ずいぶん昔に、H・G・ウェルズの『宇宙戦争』というラジオの放送劇があったでしょう。強大な力をもつ怪物のような火星人が地球を征服するためにやって来るという物語です。ドラマを事実だと信じた人びとが全米でパニックを起こしたことで有名な、あの番組が再放送されたのかと思えました。

でも、すぐに思い直しました。彼らは決してH・G・ウェルズを聴いていたわけじゃない、アメリカを占領した不気味で強力な怪物が本当にいて、全世界を支配しようとしている、と。

ブッシュが大統領に再選されたのは確かです。投票や集計で不正があったにせよ、なかったにせよ、対立候補のジョン・ケリーはさっさと敗北を認め

ました。雑魚がワニに仲直りを申し出たのです。再選を果たしたブッシュは勝ち誇って、自分の政策が国民の支持を得たと公言しました。対立陣営だったはずの民主党は反対する兆しさえ見せません。

何のことはない、同じクラブの会員が、選挙で(10億ドル単位のお金をかけて)仲間割れを演じたあと、同じ酒場で一杯やっているようなものです。11月の半ばに、ビル・クリントン前大統領を記念する図書館ができました。あの開館式を思い出します。民主・共和の両党から駆けつけた議員や歴代の大統領がブッシュ現大統領と並んで、党派を超えて団結しようと謳いあげました。

——国民は、もう4年間、ブッシュを大統領として受け入れた。アメリカはひとつに結ばれた幸福な家族となった。さあ大いに喜び祝おうじゃないかと——と肩をたたきあう。しかし、そんなお祝いの雰囲気から取り残された人びともいます。アメリカ市民は意見が一致しているわけではありません。

次の事実を考えてみてください。ブッシュが獲得した票数は、投票総数の51%です。投票率はちょうど60%でしたから、ブッシュは有権者の31%の票を獲得したに過ぎません。同じように、ケリーの得票率は有権者のわずかに28%です。棄権した40%の人びとは、票を入れるにふさわしい候補者がいなかったと言っているように思われま

す。投票した人たちにしても、同じ気持ちだったかもしれない。けれど、ともかく投票に行った。

これが決定的な勝利といえるでしょうか? 人びとの意思が尊重されたといえるでしょうか?(40%を占めた棄権票が最高得票だったので、もしも私たちが本当に民主的だったら、棄権した人びとの意思が尊重されるでしょう。つまり、大統領などいらないということ。)

今こそアメリカを変えるとき

大統領は、国民から「使命」を託されたと言いつ張るかもしれませんが。そうじゃないとはつきり言い返すことができるか。それは彼を選ばなかった私たちの活動にかかっています。

確かに彼は対立候補よりも多くの票を獲得しましたが、ほとんどの有権者にとって、対立候補のケリーは本当に選びたい人物ではなかったでしょう。過去6カ月の世論調査によると、国民の過半数が戦争に強く反対しています。投票用紙には、自分たちの意見を代表する候補の名前が印刷されています。代表する候補の名前が印刷されていませんでした。これでは過半数の有権者から選挙権を奪ったと同じことです。いま何をなすべきでしょうか。選挙の結果を見て、人びとは激しい感情に

満たされています。怒りや失望。深い悲しみや挫折感。そこには燃え上がりやすい大量のエネルギーがたまっています。もしこれに火がつくと、選挙戦の喧嘩に振りまわされていた人びとが再び立ち上がり、炎のような反戦運動を繰り広げる可能性があります。

どうしても譲れないものをかけて選挙に参加した市民の熱いエネルギーをすっかり吸いとりてしまう。選挙戦にはそういうところがあります。市民の思いは置き去りにされたまま、いくらかましというだけの候補者をホワイトハウスへ送り込むために、膨大な労力が浪費される。

でも選挙が終わった今、もう遠慮はいりません。候補者が大切な争点をことごとくはぐらかしても、市民は黙ってついて行きました。よかれと思ってそうした市民があまりにも多かった。これからは、その必要はありません。

私たちの大統領選挙は民主的とはいえない政治プロセスです。狭く閉ざされた選挙から解放されて、いまこそ選挙のキャンペーンではできなかったことに全力を傾けることができます。大きな声ではつきりと、アメリカがほんとうに変わるために何をすべきかを訴えることです。

宗教だけでなく政治の上でも原理主義を唱えるキリスト教徒がブッシュを支持しています。国民の22%を占める(正確な数こそわかりませんが、少数派であるには違いない)彼らは、神の